

# 地域に定着する放射線治療医養成 WG 領域3 チームで取り組む緩和的放射線治療「特別講義2」を開催しました

地域に定着する放射線治療医養成WGが開講する、緩和的放射線治療・密封小線源治療・高精度放射線治療の質の向上と普及を担う人材養成コース  
領域3「チームで取り組む緩和的放射線治療」において、「特別講義2」を開催しました。



## 特別講義2

11月14日（金）18：30～19：50（Zoom開催）

テーマ「がん患者に対する社会的サポート」

講師：馬場 太郎先生、西村 菜月先生（順天堂大学医学部附属練馬病院 MSW）

黒田 裕介先生（ケアリツ・アンド・パートナーズ サービス提供責任者／介護福祉士）

座長：岡野 奈緒子先生（順天堂大学医学部附属練馬病院）

要旨：がん患者に対する社会的支援制度について、ソーシャルワーカーの業務とその詳細、社会保障制度の基準や内容、それらの活用方法と問題点などについて説明があり、「どのような場合に、ソーシャルワーカーに相談することができるのか」といった実臨床に即した内容について解説いただきました。また、医療機関において医療ソーシャルワーカーが介入した事例をもとに、実際に提供できるサービスやサポートについても解説いただきました。該当症例は長期に渡り医療機関を中心に地域の包括支援センターも含め多職種で連携して関わった症例であり、従来の認識よりも多くの関わりが可能であることを学ぶことができました。

続いて後半では、在宅ケアの部分にフォーカスし、介護福祉士（ヘルパー）の視点から地域医療における介護福祉士の役割について、実際の介入事例をもとにどのように配慮しながらサービスやサポート提供しているか、またその実態について解説いただきました。実際の患者さんの自宅での生活における問題点などについても理解でき、個々人に合わせたきめ細やかな対応がされていることを知ることができました。

参加者は22名でした。

# 地域に定着する放射線治療医養成 WG 領域3 チームで取り組む緩和的放射線治療「演習2」を開催しました

地域に定着する放射線治療医養成WGが開講する、緩和的放射線治療・密封小線源治療・高精度放射線治療の質の向上と普及を担う人材養成コース  
領域3「チームで取り組む緩和的放射線治療」において、「演習2」を開催しました。



## 演習2

12月13日(土) 13:00~16:00 (順天堂医院 医局棟8階)

テーマ「多職種で取り組む包括的アセスメント-患者の思いを引き出すためのコミュニケーション-」

プログラム担当: 塚本 友紀子先生 (順天堂医院/放射線科外来 看護主任)

ファシリテーター: 山口 裕香先生、小玉 直子先生 (順天堂医院)

奥西 桃子先生 (順天堂大学医学部附属浦安病院)

### <スケジュール>

- オリエンテーション/ファシリテーター紹介/参加者紹介
- 講義①「放射線治療現場における意思決定支援」岡野 奈緒子先生 (順天堂練馬病院 医師)
- アイスブレイク [もしばなゲーム]
- グループワーク①「前立腺癌骨転移の70代男性」のケース
- 講義②「意思決定支援」奥出 由香子先生 (順天堂練馬病院 看護師)
- グループワーク②「乳房緩和照射の60代女性」のケース
- 講義③「がん患者とのコミュニケーション」加藤 俊介先生 (順天堂医院 腫瘍内科医)

要旨: もしばなゲームをきっかけにグループメンバーのコミュニケーションを図りました。

講義では、日常的に接するケースに対応する中で、どのような視点や考え方、捉え方があるのか、医療者の立場での考え方を学びました。

その後、具体的な状況を設定したケースをもとに、包括的な視点でのアセスメントを実践し、各グループ内で患者さんの発した言葉の背景や思い、必要としているサポート、医療者ができる声かけ、などについて多職種で構成されたグループ内で話し合い、その結果について全体で発表し共有しました。職種によって、また参加者自身の背景や年齢、これまでの経験なども踏まえた多様な意見交換を行うことができました。

参加者は16名でした。

